資料２

平成 27 年度における侵略的外来水生植物対策の取組状況

１．平成 27 年度の取組実績

（１）協議会事業

・平成26年３月20日に設置した「琵琶湖外来水生植物対策協議会」が事業主体となり、国、関係市、ＮＰＯなど協議会構成団体と連携して駆除を推進している。

・今年度は、引き続き、地形条件に応じて建設機械、水草刈取り船、人力等効果的な手法でオオバナミズキンバイおよびナガエツルノゲイトウの駆除事業を実施するとともに、台船を用いた新たな方法による駆除を実施した。（下記写真）。

＜事業内容＞

事業内容	事業費	内訳
・生態の実態解明と生育面積の調査等 ・建設機械、水草刈取船を主力とした駆除および人力駆除	46,000 千円	国費：11,000 千円 県費：35,000 千円

＜建設機械による駆除（人力を併用）＞

建設機械駆除

人力駆除

人力駆除

＜水草刈取り船による駆除（ジェットポンプ等を用いた人力作業を併用）＞

水草刈取り船

ジェットポンプ

＜クラムシェル装着クレーン付台船による駆除）＞

駆除前	駆除作業	駆除後

建設機械による駆除の前後の状況（守山市運転免許センター付近）

（２）その他の事業

① ＮＰＯ等による取組

・「オオバナミズキンバイ除去大作戦プロジェクト」（６月28日、９月12日）
参加団体・・・認定ＮＰＯ法人びわこ豊穣の郷、赤野井湾再生プロジェクト、
玉津小津漁協、国際ボランティア学生協会、地元自治会等

・国際ボランティア学生協会による「琵琶湖外来水生植物除去大作戦2015」
９月11日から13日の３日間で全国から延べ1,222人の学生が参加。
大津市、草津市、守山市の湖岸や内湖で人力による駆除を実施。

② 外来生物防除対策事業（県単独事業）　7,700 千円

・保全団体等への用具（胴長、手袋、ライフジャケット）の貸与等による駆除活動への支援
・東近江市伊庭内湖（ナガエツルノゲイトウ・11月実施）で駆除の試験施工と地域住民等への普及啓発
・草津市矢橋中間水路において委託事業により機械駆除を実施。　3,200 ㎡（見込み）

③ 特定外来生物防除等推進事業（国直轄事業）　16,200 千円

・昨年度に引き続き、南湖西岸の雄琴港周辺に生育するオオバナミズキンバイを防除。
約 10,000 ㎡

（３）平成 27 年度実績

1　第１号駆除業務委託（琵琶湖南湖西岸：大津市）　16,891㎡
　若宮港南、カネカ工場北、雄琴川河口南、山の下湾
2　第２号駆除業務委託（琵琶湖南湖東岸：草津市、守山市）　8,538㎡
　草津市：烏丸半島東岸、近江大橋東詰南側
　守山市：木浜町１～３号、南北水路、免許センター付近
3　第３号駆除業務委託（琵琶湖南湖東岸：草津市）　3,000㎡（見込み）
　草津市：矢橋中間水路
4　第４号駆除業務委託（琵琶湖南湖東岸：草津市、守山市）　4,000㎡（見込み）
　草津市：堺川内湖、津田江内湖の一部
　守山市：天神川上流部、赤野井内湖小津袋北
5　第５号駆除業務委託（琵琶湖南湖東岸：草津市）　7,200㎡（見込み）
　草津市：矢橋中間水路

・各事業において駆除区域の定期的なモニタリングを実施。

２．オオバナミズキンバイの生育面積の推移

平成 21 年に琵琶湖南湖・赤野井湾で初めて確認されたオオバナミズキンバイは、平成 25 年度まで生育面積の拡大傾向が続き、同年度末に 64,880 ㎡に達した。しかし、平成 26 年度に積極的な駆除事業を実施したことにより、同年度末の生育面積は約 46,300 ㎡まで減少した。

今年度の状況は生態解明事業において調査中であり、来年度の総会で報告する予定。

表２．オオバナミズキンバイの生育面積の経年変化

年度	平成 21（12 月）	平成 22（11 月）	平成 23（12 月）	平成 24（12 月）	平成 25（年度末）	平成 26（年度末）	平成 27（年度末）
生育面積	142 ㎡	478 ㎡	1,638 ㎡	18,292 ㎡	64,880 ㎡	46,300 ㎡	調査中

３．課題

（１）群落の再生

平成27年度になって、前年度に機械駆除を行った場所においても急速な群落の再生や新たな群落の漂着が確認されている。

機械駆除前の生育状況（H26/10）

機械駆除直後（H27/4）

再生状況（H27/10）

平成27年3月に機械駆除を実施した後、同年夏に群落が急速に再生した地域【矢橋中間水路】（丸印は同じヨシの株）。

（２）分布の拡大

① オオバナミズキンバイ

琵琶湖北湖では、周辺水域を含む下記の４地域で確認された。これらのうち、米原市蓮池を除く３水域では、群落の生育規模が小さいことから、すべて早急に除去を完了させ、現在監視体制に入っている。蓮池では、生育面積が大きく、またナガエツルノゲイトウの大規模な群生が存在していることから、除去は２つの群落に対して実施し、残りの群落の除去は後日建設機械等を用いて行うものとした。

・北湖周辺の 4 地点（図 3）で新たに確認し、順次、対応した。

地　点	確認	群落規模	対応状況
饗庭湖岸／高島市新旭町	H27/8 月※	約 15 ㎡	駆除実施(H27.11.11)監視中
伊庭内湖／東近江市	H27/7月	約 25 ㎡	駆除実施（H27/7/23）監視中
神上沼／彦根市	H27/8月	約 15 ㎡	駆除実施（H27/9/2）監視中
蓮池／米原市	H27/8月	約 70 ㎡	一部駆除実施（H27/10/9）

※京大大学院研究者により平成 26 年 12 月に確認、その後消失していたが、平成 27 年 8 月に再確認された。

北湖周辺におけるオオバナミズキンバイ（★）の分布拡大の状況

饗庭湖岸（高島市新旭町）

伊庭内湖（東近江市）

神上沼（彦根市）

蓮池（米原市）

② ナガエツルノゲイトウ

ナガエツルノゲイトウは北湖においても、彦根市矢倉川、高島市安曇川町北船木を分布域の北限としていたが、平成27年度には、さらに北へと分布範囲を拡大していることが明らかとなった。

	西岸	東岸
新たな確認地点	高島市新旭町藁園・針江・饗庭（湖岸）	米原市蓮池（内湖）、長浜市豊公園・南浜・早崎（湖岸）・海老江・竹生島（湖）
生育規模	小規模群落のみ	蓮池：約 1,360 ㎡ 他は小規模群落
対応状況	駆除体制検討中	駆除体制検討中

北湖周辺におけるナガエツルノゲイトウの新たな確認地点（▽）

針江湖岸（高島市新旭町）

蓮池（米原市）

早崎湖岸植栽地（長浜市）

４．今後の取り組み

（１）外来水生植物防除推進事業

① 琵琶湖南湖においては、オオバナミズキンバイ等が猛威を振るい、広範囲にわたって大規模群落を形成しているため、平成28年度においても引き続き水草刈取り船や建設機械を用いて大規模な駆除を行っていく。実施時期については、今年度の状況を教訓に、成長が始まる前から実施していく。

また、今年度には前年度に駆除した場所での再生が著しかったことから、早い時期から定期的な巡回・監視を行い、新規の発生や再生を確認した場合は小規模なうちに早期に駆除していくことで拡大を防いでいく。

② 琵琶湖北湖においては、分布拡大の初期にあたることから、南湖のような大規模に生育する状態には至っていないものの、対策が少しでも遅れると、同様の状態になるおそれがあることから、予防的観点に立ち、南湖と同様に成長が始まる前から機械や人力による駆除を実施していく。

③ 琵琶湖や周辺の内湖、河川、池沼には漁業や農業の管理区域や施設があり、基本的には設置者・管理者が管理の一環として駆除を実施することをお願いしており、外来水生植物への知識や対策方法について理解いただきながら、必要な支援を行っていく。

④ 今後も、より効果的な駆除手法を取り入れながら、建設機械等による大規模群落の駆除を進めるとともに、小規模群落における人力駆除をしっかりと進めて管理可能な状態に持ち込みたい。

（２）連携・協働・普及啓発事業

外来水生植物の対策にあっては、県だけではなく地元自治体や環境保全団体、ＮＰＯなど、多様な主体による取り組みが大変重要であり、それぞれが連携して活動していく必要がある。こうした団体に対しては引き続き、防除に必要となる道具や資機材（胴長、手袋、ライフジャケットなど）を貸与することや、外来水生植物などの知識の習得、理解の促進を目的とした取り組みを進めていく。